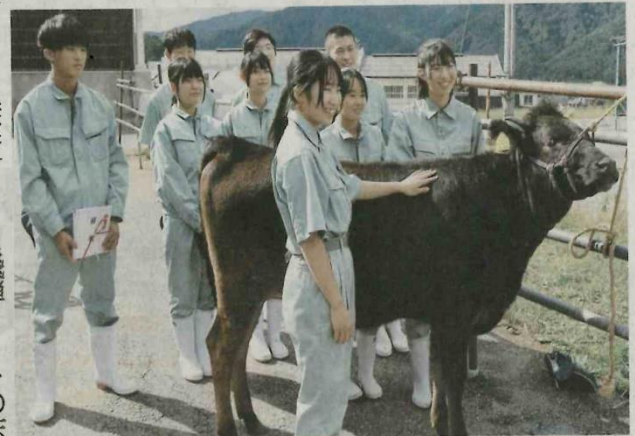


動物科学科

JA飛騨ミートより雌子牛の寄贈
雌牛肥育の研究に役立てて

肥育研究に役立てて

JA飛騨ミート 飛騨高山高に子牛贈る



飛騨高山高校に贈られた雌の子牛＝高山市山田町、同校山田キャンパス

高山市の飛騨ミート農業協同組合連合会（JA飛騨ミート）は、飛騨牛の肥育や繁殖に取り組む同市の飛騨高山高校に、肥育用の雌の子牛1頭を贈った。6日、同市山田町の同校山田キャンパスで寄贈式が開かれた。

将来の飛騨牛生産を担う高校生の雌牛肥育技術の研究や向上に役立ててもらおうと、2015年から毎年1頭ずつ贈っている。子牛は名前が「みねつばき」で、生後約10カ月。動物科学科肥育専攻班の生徒が1カ月前からすでに肥育を始めている。

JA飛騨ミートの志田浩一代表理事長らが、同キャンパスを訪問。志田代表理事長は「将来のある皆さんに育ててもらえることで、生産農家の励みにもなる。立派に育ててほしい」と期待を込め、目録を手渡した。

生徒代表で同科2年の丸山友希さん(16)は「げがや病気をしないよう、愛情を持って育てていく。飛騨牛ブランドがますます向上するように取り組んでいきたい」と話した。

(玉田健太)